

# News Letter

ニュースレター

2023.10 vol.124



アスナル金山にて行われた盆踊りの様子

## 特集◎ 金山駅周辺のまちづくり

南北エリアが一体となった「金山まつり」初開催

### 調査研究

令和4年度研究成果報告会を開催しました

### まちづくり支援

みなさまのまちづくり活動を応援しています！

### まちづくり来ぶらり

東洋一の水晶宮

# 金山駅周辺のまちづくり

## 南北エリアが一体となった「金山まつり」初開催

金山総合駅南口駅前広場では、「金山マルシェまつりブース」や「子ども緑日」などが開催されました。



お神輿が金山総合駅の南から北へと巡行



日本特殊陶業市民会館前広場でゲームを楽しむ親子



金山神社のライトアップ

### 地域一体となって にぎわいを創出

「わっしょい!わっしょい!」

8月5日、金山総合駅周辺に賑やかなかけ声と笛や太鼓のまつり囃子が響き渡りました。8月5日、6日の2日間にわたり開催された「金山まつり」の目玉行事の一つ「お神輿&お囃子の練り歩き」が街中をお祭りムードに染め上げたのです。

金山まつりは、金山総合駅の南北エリアが一体となって実施する初めてのお祭りで、この日のために、地域の学区や商店街、地域団体「金山駅前まちそだて会」の方々などと力をあわせて準備を進めました。

例えばお神輿。熱田区高蔵学区にある金山神社に奉納されていたものを今回のまつりのために整備し使用しました。これは、金山神社への声かけで実現したものです。「金山神社にお神輿があることは知っていたのですが、近年使われているのを見てなかったんです。今回、金山まつりの話を聞いたときにそのことを思い出して、金山神社にお願いして使わせてもらうことにしました。」そう話すのは、高蔵学区連絡協議会の瀧会長と中野さん。

また、アスナル金山で行われた盆踊りでは、学区の女性会のみなさんが多く参加し、まつりを盛り上げました。金山まつりのために書き下ろされた「金山まつり音頭」をはじめ、伝統の「金山

橋音頭」などの踊りを地域の方々や子どもたちとともに練習を重ねて当日に挑んだのです。平和学区公民協議会的那須会長は、「踊り手を担った女性会のメンバーや、踊りやお囃子に参加した子どもたちのとても楽しそうな姿を見ることができて、学区として参加してよかったと思います。」と嬉しそうに話します。

当日はこの他にも、金山総合駅南口駅前広場、金山南ビル、名古屋都市センター、金山神社、日本特殊陶業市民会館（現 Niterra 日本特殊陶業市民会館）、アスナル金山、金山総合駅連絡通路橋の全7会場でさまざまなイベントが開催され、たくさんの来場者でにぎわいました。

平和学区女性会のみなさんと  
那須会長（前列左から2番目）



日本特殊陶業市民会館前広場  
では、「雪の中で宝探し！」イ  
ベントなどが行われました。



商学連携企画で開発した焼きそばを  
販売する名古屋学院大学のみなさん



学区を越えて集まったお囃子隊が  
まつりを盛り上げました。



高蔵学区共催「ふれあい寄席」に登壇し  
た春雨や風子さん（中）と、高蔵学区の瀧  
区政協力委員長（左）、中野さん（右）。

## 「交通拠点」から 「交流拠点」に向けて

金山地域は、JR東海道線・中央線、名古屋鉄道本線、名古屋市営地下鉄が交差し、中部圏で名古屋駅に次いで2番目に1日の乗降客数の多い交通の要衝です。しかし、駅の南北は鉄道で分断され、さらに北は中区、南は熱田区と行政区・学区が異なるため、南北エリア間の交流が少ないという課題を抱えていました。

1989年、金山総合駅・連絡通路橋が整備されたことで、駅の南北をつなぐ基盤ができ、1999年には南口に金山南ビル、2005年には北口にアスナル金山が完成し、それぞれの駅前拠点の整備も進みました。このような状況の中で、2017年、名古屋市は「金山駅周辺まちづくり構想」を策定し、地域主体によるまちづくりを位置付け、金山地区のまちづくりは少しずつ進んできました。

2021年3月には、南北エリアを問わず金山を活性化することを目的とした「金山駅前まちそだて会」が発足。金山駅周辺の企業や個人の「金山好き」メンバーが集結し、街の歴史や魅力を発信しています。「金山は交通の要所

として毎日たくさんの方が行き交いますが、駅構内から外に出ない人も多いんです。」と、金山駅前まちそだて会の田中会長は現状を振り返ります。駅利用者を中心に駅の外まで誘導するか。「金山を『交通拠点』から『交流拠点』へ」。駅を中心とした街の活性化を進めていきたい、そのためには南北の交流が重要だと田中会長は語ります。

そして、昨年2022年には、南北エリアをつなぐ初の試みとして、「金山エンタメアートフェス」が開催されました。アスナル金山と日本特殊陶業市民会館、南北の商店街振興組合が連携し、金山の南北を音楽・アート・食で結ぶイベントです。そして、このイベントを継続・発展させるものとして、今年の「金山まつり」が開催されたのです。

## 南北の垣根を超えた 金山を目指して

「来年は何をする？」期待を込めて次を見据えるのは、南エリア・金山商店街振興組合の田邊理事長です。金山エンタメアートフェス以前は、南北の交流がほとんどない状態だったところ、毎年のイベントをきっかけに年々交流が増えていっています。「金山地域のまちづく

りには北も南も関係ない。どんなイベントでも続けていくことで、最終的にはもっともって一体化して、金山の知名度を上げていきたい。」と田邊理事長。

「来年以降も続けて、金山まつりが地域に浸透していけばいいですね。」と話すのは、北エリア・金山橋連合商店街振興組合の大下理事長。金山橋連合商店街振興組合では例年独自の夏まつりを開催していましたが、今年は金山まつりとして開催。お祭りの規模が大きくなって、よりたくさん子どもたちに楽しんでもらえたと喜びを語ります。

まちづくりには、さまざまな担い手があります。地域住民、商店街、学生、周辺企業、団体等、立場は違っても「まちを良くしていきたい」という想いは同じです。金山駅周辺地域では、「金山エンタメアートフェス」や「金山まつり」といったイベントを重ね、南北エリアが一体となった魅力あるまちづくりを実施する機運が高まっています。

名古屋まちづくり公社としても、こうした地域が一体となる取り組みの推進や、駅周辺の管理運営施設を活用し、地域の方々と一緒に金山が魅力あるまちとして発展していくよう取り組んでいきたいと考えます。

# 令和4年度研究成果報告会を開催しました

名古屋都市センターでは、名古屋のまちづくりや都市計画行政の課題を先取りし、その解決の糸口を提示するため、学識者や行政機関等とともに、幅広い観点からの調査研究を実施し、その内容を成果報告会や当センターHP等で公表しています。

今年度は、8月2日(水)にセンター11Fのホールで報告会を開催し、行政関係者をはじめ、市民の皆様にもご参加頂く中で、昨年度にとりまとめた4つの調査研究内容を報告しました。



令和4年度研究成果報告会の様子

## 研究1 名古屋市内の水辺に対する市民の意識とこれからの活用について

名古屋市内の河川周辺地域を対象に、市民の水辺に対する意識を調査分析したうえで、まちづくりに必要とされる「地域コミュニティ参加意欲」との因果構造分析を行い、水辺を活かしたまちづくりの施策を提案しました。



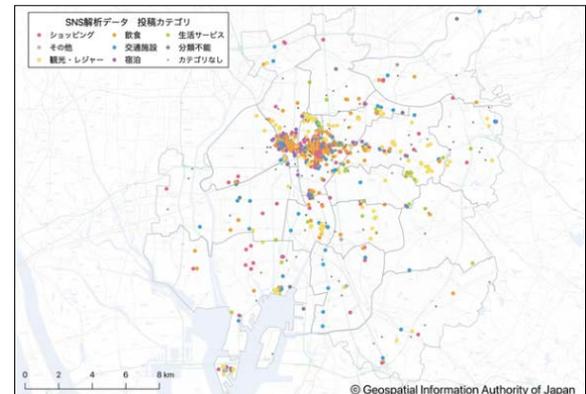
Nagoya city  
River view  
はこちらから!



水辺に対する市民意識の醸成のためのVRコンテンツ  
[Nagoya city River view]

## 研究2 ビッグデータ分析による名古屋市内における訪日外国人の行動実態

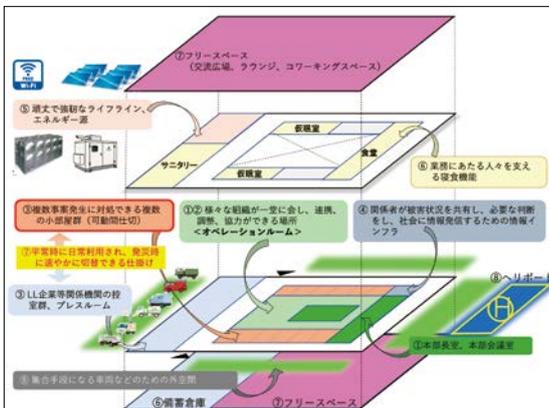
名古屋市のインバウンド拡大に向け、SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)投稿解析データ等のビッグデータを活用した調査分析により、名古屋市における訪日外国人の行動実態を把握し、今後の施策展開の方向性を提示しました。



訪日外国人の名古屋市内でのSNS投稿の分布

## 研究3 三の丸地区における防災に係るフェーズフリー\*なまちづくりの研究

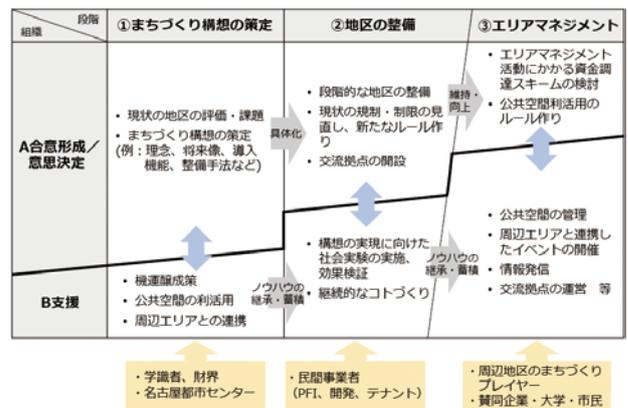
南海トラフ巨大地震等の大規模災害時に、三の丸に集まる行政機関を始めとする関係者が連携・協力して災害対応するために必要な防災機能と、有事と平時におけるフェーズフリー\*なまちづくりについて提案しました。\*フェーズフリー…平時にも有事にも機能



大規模災害時に必要な司令塔機能

## 研究4 三の丸地区のまちづくりに向けた組織・体制について

まちづくりの段階とそれを担う組織・体制について、他都市の事例をもとに整理したうえで、今後、新たなまちづくりが期待されている三の丸地区において、段階的にまちづくりを推進していくための組織・体制を提案しました。



三の丸地区における段階的なまちづくりの組織・体制

名古屋都市センターのホームページでは、令和4年度調査研究の研究報告書とYouTube動画を公開しております。ぜひご覧ください。





# まちづくり支援のご紹介 みなさまのまちづくり活動を応援しています！

## 活動助成

活動のステップに応じた助成メニューで、まちづくり活動にかかる経費の一部を支援。

活動の困りごと、お悩みご相談ください！

### 団体づくり助成

これからまちづくり活動を始めるグループや、活動初期の団体の活動を応援します。仲間づくりや、まちづくり活動の最初の一歩にぴったりの助成です。

### 成長支援助成／実践活動助成

活動の周知や公共空間を活用したチャレンジ的な活動、組織基盤整備に関する活動。また、まちづくりの方針・まちづくり構想の策定、その実現に向けた活動等を応援します。

やりたいこと

同じ興味・関心を持つ仲間を集めたい

自分たちの活動を  
みんなに知ってもらいたい

具体的な活動の進め方を考えたい

団体づくりの段階

まちのことを  
もっと  
知りたい

地域の人と関係を作りたい

まちの将来像をまちづくり  
構想としてまとめたい

活動や収支の計画を作りたい

成長段階

構想を  
振り返って  
良くしたい

まちづくり構想を実現するために

社会実験を行い  
検証したい

地域や行政と連携したい

実践活動の段階

令和5年度は、12団体が助成を受けています。

令和5年度は、7団体が助成を受けています。

活動の一部をご紹介します。



### ほうせいだんちーズ

「ゆるやかで新しい地域のコミュニティづくり」をテーマに、毎月1回、道路のゴミを拾いながら、近くの目的地までおさんぽをする活動を実施。



### ニシヤマイバショラボ

居場所を作りたい人々が語り合う場「イバショづくり妄想会議」。7月は実際に妄想を形にした人の話を聞く「ジツゲン倶楽部」を実施。



### かさでら図書館運営委員会！

「気軽に本に触れられる場所、人と人・地域がつながる場所、心安らぐ居場所を作る」と「かさでらのまち箱」を拠点に活動。8月に古本市を実施。

活動の一部をご紹介します。

### 鶴舞・千種エリアマネジメント協議会



千種アーススクエアの周辺企業が協働し、エリアマネジメントに取り組む。8月には千石学区の夏祭りと連携した「ツルマイ・チクサ ミズマツリ」を開催し、地域を盛り上げた。

### 星崎学区連絡協議会



「誰一人取り残さない」を目標にした、先進的な防災まちづくりに取り組む。台風の接近に伴い変化する状況をタイムラインで考えるなど、実践的な防災ワークショップを実施。

## アドバイザー派遣

団体の成長段階に合わせてまちづくりの専門家から、活動内容などについて専門的知識や経験を活かしたアドバイスを受けることができます。(一定の条件があります)

## 人材育成、スキルアップ講座、交流会

まちづくり活動のキッカケづくり、ファシリテーションの技法などの講座や、まちづくり活動団体・関係者との交流会を開催しています。毎月開催の交流の場「未来茶輪(ミライカフェ)」も、ぜひご参加ください。

## 交流スペース

名古屋都市センター 13階にある静かな会議スペース。まちづくり団体に登録された方は無料でご利用いただけます。(要予約)

## 情報発信

まちづくり情報や地域の取り組み、講座のご案内を発信しています。

メールマガジン「まち活サポートネット」  
ご登録いただいた方へ毎月1回配信中！

月刊「地まちのチカラ」  
地域の活動、活躍中の方を毎月取材し発行



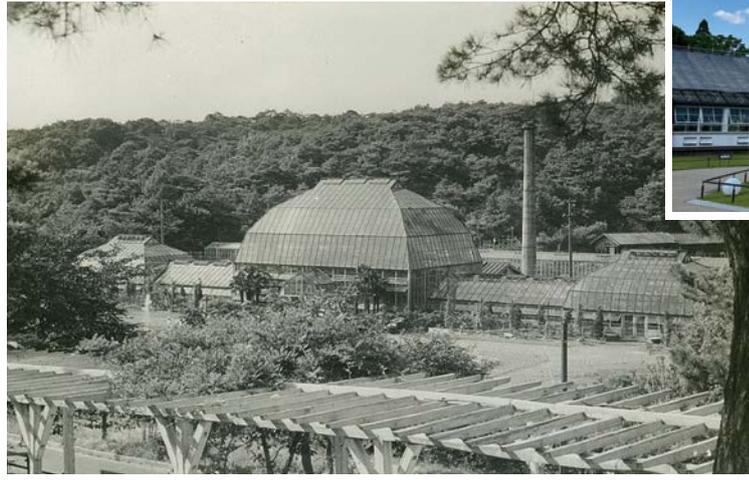
# まちづくり来ぶらり

第91号

## まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。

開園当初の東山植物園温室前館



現在の東山植物園温室前館

## 東洋一の水晶宮

名古屋市東山植物園温室前館は、その美しい姿から、かつて「東洋一の水晶宮」と称えられました。1936年に建設され、現存するものでは日本最古の公共温室とされています。戦火や伊勢湾台風を経験し補修に補修を重ねていましたが、2013年から足掛け8年に及ぶ解体修理を行い、開園当初の華麗な姿に復原されました。

「水晶宮」とは、1851年にロンドンで開催された第1回万国博覧会に建てられた鉄骨造り総ガラス張りの建物のこと。英国の庭園技師の設計で、すでに温室で導入され始めていた技術を応用したものでした。

東山植物園の大温室を設計したのは、名古屋市土木部建築課の一圓俊郎（いちえんしゅんろう）。国指定文化財等データベースによると「我が国最初期の本格的な鉄骨造温室建築として重要であり、鉄とガラスによる建築物の造形的特質を良く示している。また、我が国最初期の全熔接建築物とし

て建築技術史上、高い価値がある。」として、2006年に国の重要文化財に指定されました。

5つの展示室に分かれる温室内には、ヤシや多肉植物など約400種類の植物が展示されており、開園当初から大切に育てられているシンノウヤシなど13種が今もなお残っています。

さらに詳しく知りたい方は、[こちら](#)

◆参考文献◆

『東海の産業遺産を歩く』(Sc-A)

『官庁建築家・名古屋市長の建築家の人々とその設計』(Se-セ)

『街の歴史建築を訪ねて』(Se-セ)

『東山植物園の成立過程と温室の構想・設計について』  
富屋均

日本植物園協会誌 (48) 77-99, 2013-11

※( )内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

## 図書紹介

### 『地図記号のひみつ』

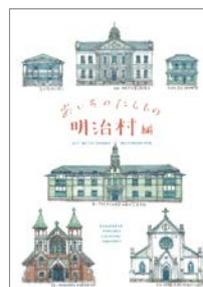
著者：今尾恵介 著  
出版社：中央公論新社  
請求記号：Nb-イ



地図記号は奥が深い。生糸の輸出が国を支えていた頃の「桑畑」や瀬戸内海の手前で塩が多く製造されていた頃の「塩田」の記号が姿を消し、代わって再生可能エネルギーを生む発電用の「風車」、高齢化で需要が増す「老人ホーム」の記号が新設された。地図記号からは、明治から令和に至る日本社会の変貌が読み取れる。地形図に親しんできた地図研究家が、地図記号の楽しみ方を紹介する。

### 『あいちのたても 明治村編』

著者：村瀬良太 執筆/本文  
出版社：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会  
請求記号：Sc-ム



愛知県内にある文化財として貴重な建物のうちの国登録有形文化財の魅力を紹介する冊子「あいちのたても」シリーズ第4弾。今回は近代建築の保存活用を牽引してきた博物館明治村の魅力を改めて紹介する。写真やイラストが多く、ガイドブックとしても活用できる一冊。

### 『今こそ知りたい水災害とSDGs②』

### 『水災害』に備えて～私たちのできること』

著者：橋本淳司 著  
出版社：あすなろ書房  
請求記号：Md-コ2



近年、短時間に大量の雨が降ったり、また台風が巨大化して水害が頻発している。水害にどのように備えるか、いざ災害が発生しそうになったらどのような行動をとったらよいか、台風の接近状況に応じた行動チェックリストや断水時に節水しながら健康状態を保つ方法など役立つ情報を盛り込んだシリーズ第2巻の絵本です。

1

### なごや防災オープンデータ カタログサイトの公開(令和5年4月~)

本サイトは名古屋市防災危機管理局、名古屋大学減災連携研究センター及び名古屋まちづくり公社名古屋都市センターが共同で開発し、名古屋市が公表するなごやハザードマップ(洪水、内水氾濫、高潮、地震、津波、ため池、土砂災害)を始めとする防災情報のGIS\*データを公開するものです。現在、24件のデータセットが掲載され、教育・研究や民間事業者の活動等におけるデータの利活用を促進することが期待されます。名古屋都市センターのまちづくり資料総合案内からアクセスしてください。

<http://nui-mdc.jp/>

※GIS…コンピュータ内に地理情報を取り込み、それを活用するシステム



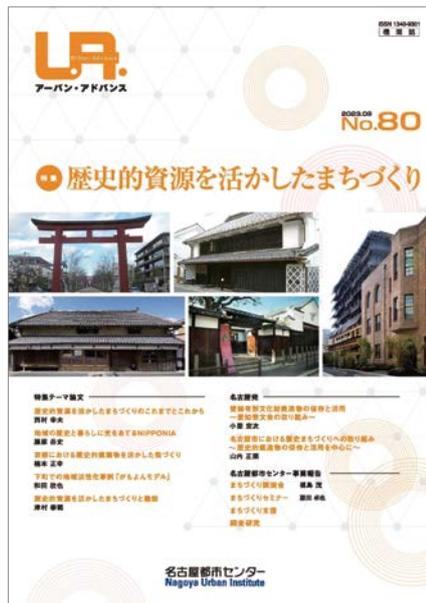
2

### 機関誌アーバン・アドバンス No.80発行 特集「歴史的資源を活かしたまちづくり」

アーバン・アドバンスは、まちづくりに関わる方々の論文、名古屋のまちづくり情報、名古屋都市センターの研究成果などを掲載しています。

80号のテーマは「歴史的資源を活かしたまちづくり」です。魅力的な歴史的資源(近代建築物、城、寺、古民家等)が数多く存在しており、歴史的資源を活用することで、地域ブランドの向上や交流人口の拡大といった効果が期待されています。このような中、歴史的資源を活かしたまちづくりをテーマに取組事例や今後の展望について特集します。

※本誌は名古屋都市センター12階のまちづくりライブラリーにて販売(定価700円)しております。(令和5年9月末発行予定)



3

### 地域のまちづくりの魅力をお届け。月刊「地まちのチカラ」毎月発行中!

月刊「地まちのチカラ」では、名古屋のまちづくりを応援するために、市内各地域のまちづくり活動団体によって取り組まれている活動やその魅力を発信しています。名古屋都市センター職員が、実際にまちづくり活動を見て・聴いて・体験した内容をまとめ、毎月発行することで、名古屋のまちづくりの「今」を皆様にお届けします。

また、名古屋都市センターの助成や講座の募集・報告なども併せて発信しています。

月刊「地まちのチカラ」は、名古屋都市センターホームページからご覧ください。

地まちのチカラ  
vol.93

バックナンバーも  
ホームページから  
ご覧いただけます。



昨年実施された事業の一部をご紹介します。

# 歴史を巡る まちを巡る



歴まちくんとおとも



日本聖公会名古屋聖マルコ教会外観

## 認定地域建造物資産(名古屋聖マルコ教会聖堂)の保存

東区白壁1丁目にある「名古屋聖マルコ教会聖堂」は、名古屋市都市景観条例に基づく認定地域建造物資産に認定されています。

この聖堂は1956年(昭和31年)に建築され、その後耐震補強などが施されてきましたが、築後70年近くを経過し、建物の老朽化や耐震性に懸念が生じ、歴史的建造物保存活用推進員(通称なごや歴まちびと)の派遣要請がありました。

教会内ではすでに新築案と減築案のプランと見積書が作成されており、耐震改修はあまり協議の対象とはなっていませんでした。

しかし、派遣された歴まちびとにより、文化のみちではカトリック主税町教会(カトリック)、日本聖公会名古屋聖マルコ教会(中道:カトリックとプロテスタントの懸け橋となる教会)、日本福音ルーテ

ル復活教会(プロテスタント/ルター派)と世界的に伝統のある3つの教会が存在する貴重なエリアとなっており、地域の歴史や教派による教会建築の違いを学ぶことができることから、どれも欠かせない貴重な資産となっていることや保存のための耐震改修案を提案され、信徒総会で耐震改修案が採択され、聖堂が保存されることとなりました。

建物は壊されてしまえば、やがて人々

の記憶から消え去り、同時に地域の歴史も消えていきます。

今回のように歴史的建造物に対する歴まちびとと派遣の取り組みや歴まちびとの熱意が名古屋の歴史的風致維持に寄与していくことになると考えています。

今回は歴まちびとの努力と所有者の理解により歴史的建造物が保存活用されていくこととなった事例を紹介させていただきます。



公益財団法人 名古屋まちづくり公社

**名古屋都市センター**  
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<http://www.nup.or.jp/nui/>

ISSN:1341-6820



この印刷物は再生紙を使用しています。

利用案内●どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場  
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)

【12階】まちづくりライブラリー

火～金曜日: 10:00～18:00

土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

※休館日: 月曜日(祝休日の場合はその翌日)、  
年末年始

まちづくりライブラリーは、  
上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館



SNS  
やっています!

